

教科等研究会（小学校図画工作部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

つなぐ・つながる造形教育

～自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童生徒の育成～

～児童生徒が安心して制作できる題材と授業展開の工夫～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
6/9	25人	龍野小学校	8/18	龍野小学校	実技研究会「日本画」 授業研究会	10/30	津森小学校	上土井恭子 教諭	1/26	益城中学校	嘉古田剣吾 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマについて

本年度の上益城郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、昨年度に引き続き、図画工作科の特性を生かしてより具体化した研究を進めていくことにした。図画工作科の目標は、「表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成すること」を目指している。しかし、図画工作科の授業において、「不器用だ」「不得意だ」と苦手意識をもって過ごす子どももいる。そのような子どもたちも全員が参加でき、理解し、習得し、活動していくことができるようにすることが求められる。そのため、授業のUD化の視点をもち、「焦点化」「視覚化」「共有化」を図り、「自信をもって、意欲的に表現活動に取り組む児童の育成」「児童が安心して制作できる題材と授業展開の工夫」を研究していくこととした。

研究の視点として、以下の3点を挙げ、研究に取り組んだ。

- (1) 児童生徒が自信をもって制作に取り組める題材の工夫
 - ア 児童生徒の発想・構想が生かされる題材の工夫
 - イ 失敗を恐れず制作に取り組める題材の工夫
 - ウ 児童生徒の実態に応じた教材の設定の工夫
- (2) 児童生徒が自信をもって制作に取り組める授業展開の工夫
 - ア 分かりやすい授業展開の工夫
 - イ 児童生徒が見通しをもつことができる授業展開の工夫
- (3) 自分の思いを表現できる、自由に言える人的環境や学習空間づくり

② 実技研修

実技研修会では、指導者として図工指導の幅を広げるために、日本画体験を行った。講師として嘉島町在住の日本画教室も開かれている日本画作家の大塚浩平さんを講師として招き研修会を行った。小中学校の授業でも取り入れられる技法について、講師に細やかに説明をしていただき、各々のモチーフを使って実践していった。



日本画作家
大塚浩平さん

胡粉の重ね具合で陰影を表現し、その上から更に色を重ねていく日本画の制作工程に会員も楽しみながら学んでいった。

③ 授業研究

本部会では、小学校・中学校合同で2回の研究授業を行った。

【小学校での研究授業】

津森小学校 上土井 恭子 教諭 第3学年 「さわって わくわく」表現

【中学校での研究授業】

益城中学校 嘉古田 剣吾 教諭 第2学年 「野老紋の秘密を解き明かそう」鑑賞

(2) 成果と課題

- 実技研修では講師を招き、なかなか触れる機会のない日本画について制作を体験できた。図工指導の視点の幅を広げるきっかけをつくることができた。
- 授業研究会では、教材との出会わせ方、目的意識のもたせ方など、児童にとって分かりやすく、ワクワクする取り組みをすることが、すべての児童の学ぶ意欲につながるということが分かった。
- 付箋や ICT の効果的な活用で、視覚化され児童の理解の手立ての一つとなった。また、ロイロノートの活用で、自分や友達の考えを知ることができ、そのよさを全員で共有することができた。
- △ 研究授業では、触覚（形）のイメージをもとに視覚的な絵に表すという難しさがあった。「触覚」と「視覚」のズレを指導者がどう理解し、どのように児童に指導するのかをより深く研究する必要があった。

4 実践事例

(1) 実践報告の概要

【小学校での研究授業】 津森小学校 上土井恭子 教諭 第3年1組

図画工作科 「さわって わくわく」

本題材は、身のまわりの材料の触り心地の面白さや違いを楽しみながら描く活動を通して、楽しく活動し、友達と関わり、協力する力を培いながら絵に表す題材である。本題材では触って感じる楽しさから子どもたちが積極的に材料と関わり、自分の感覚で感じ取ろうとする姿を引き出すことをねらいとする。

本時では、導入で材料の「触り心地」に焦点化するためにブラックボックスを作り、触覚のみで材料の感触を楽しむ工夫を行った。児童は楽しみながら何度も友達と触り心地を確かめ合い、その感触を表現する言葉を見つけていった。

展開では、様々な材料の触り心地を生かしてどんな絵ができそうかを考えさせた。すべての児童が分かりやすいように色分けした付箋を活用し、考えをボードに張り付けていった。それぞれの材料に似合う絵のイメージを視覚化することで、学級全体で共有することができた。共有の中で、違う材料でも同じ題材（モチーフ）を表現することができるという友達同士の意見の交流から、イメージを広げた児童もたくさんいた。

自分の作品作りの構想の活動では、どの材料を用いて何を制作するか考える際にタブレットを活用した。児童が作品に使いたい材料を自分で撮影し、その材料で表現したいものを記入後、担任へ転送し（ロイロノート）、電子黒板を見ながら、全員で確認ができるよう工夫をしていった。このような多くの工夫を取り入れ「どの子も楽しく」参加できる授業を展開していった。



ブラックボックスに手を入れ、触り心地を楽しむ児童



材料に合う絵を想像し、考えを書いた付箋をボードに貼る児童



タブレットを活用し、作品の構想を電子黒板で交流

(2) 学習構想案 (一部抜粋)

第3学年 図画工作科学習構想案

日時 令和5年10月30日(月)第5校時

場所 津森小3年教室

指導者 上土井 恭子

1 単元構想

題材名	さわってわくわく(絵 (表現))		
題材の目標	(1) 材料を触ったり、見たりして、材料の形や色などの感じを捉えている。 (2) 材料に触れながら、形を変えたり、並べたり、組み合わせ方を変えたりなどの工夫をして表している。 (3) 触り心地から仲間分けをしたり並べたりしながら、表したいことを見つけ、どのように貼るかを考えている。 (4) 材料の触り心地のよさや違いを楽しもうとしている。		
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①材料を触ったり、見たりして、材料の形や色などの感じを捉えている。 ②材料に触れながら、形を変えたり、並べたり、組み合わせ方を変えたりなどの工夫をして表している。	①触り心地から仲間分けをしたり並べたりしながら、表したいことを見つけ、どのように貼るかを考えている。	① 材料の触り心地のよさや違いを楽しもうとしている。
題材終了時の児童の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)			
材料の触り心地の面白さや違いを基に表したいことに関する自分のイメージをもち、どのように貼るとよいか考え、工夫して表現できる児童			
題材を通した学習課題		本題材で働かせる見方・考え方	
触った感じからもったイメージは、どの材料をどのように重ねたり並べたりすることで表現できますか。		材料の触り心地の面白さや違いを楽しみながら、どの材料でどのように表現すると自分のイメージを表現できるか考えること。	
指導計画と評価計画(3問取扱い 本時1/3)			
過程	時間	学習活動	評価の観点等 ★は記録に残す評価の場面で「具体的評価規準」
一	1 本時	○材料を触って感じたことや思いついたことを出し合う。 ○どんな触り心地の材料で、何の絵をつくるか考える。	★【態①】(観察) ○材料の触り心地のよさや違いを楽しんでいる。 ★【思①】(シート) ○触った感じから発想を広げ、表したいことを見つける。
二	2 3	○触り心地から連想することを絵に表す。 ○触って鑑賞する。	★【思①】(シート) ○触り心地から仲間分けをしたり並べたりしながら表したいことを見つけ、どのように貼るかを考えている。 ★【知①②】(観察・発言) ○材料に触りながら、形を変えたり、並べたり、組み合わせを変えたりなどの工夫をして、表している。 【思①】(観察・ノート) ○友だちの絵を見たり触ったりして、表したいことに合う材料を使っていることに気づいている。

4 本時の学習

- (1) 目標 材料を触って感じたことからイメージを広げ、何をつくるか考えることができる。
 (2) 展開 (○発問 ・指示 ◇予想される児童の反応)

過程	時間 (分)	学習活動	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	10	<p>1 課題をつかむ。</p> <p>① 学習の見通しを持つ。 ○さわったらどんな感じがしますか。 ◇つるつる ざらざら がたがた ぶにゅぶにゅ ふわふわ ぶによぶによ くしゃくしゃ など</p> <p>②めあてを確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【めあて】どんな触り心地の材料で、何の絵をつくるか考えることができる。</p> </div> <p>・めあてを読みましよう。</p>	<p>○班ごとに袋に入れた違う材料を児童に触らせて楽しませる。</p> <p>○触り心地を児童の言葉で表現させながら、何が入っているかを想像させ、材料に対する興味関心を高める。</p> <p>○めあてを音読させ、意識付けをする。</p> <p>○さわり心地から何に似合うか考えてつくった教科書の作品を提示し、どんな学習をするか見通しを持たせる。</p> <p>○学習の流れを提示し、見通しを持たせる。</p> <p>①どんな触り心地の材料で、何の絵をつくるか考える。 ②作品をつくる。 ③互いの作品のよさをさわって見つける。</p>
展開	10	<p>2 課題の解決に向けて活動する。</p> <p>①材料に触って、似合うと感じた物を考える。</p> <p>○それぞれの材料が何に似合うか考えましよう。 ・付箋に書き出してはりましよう。</p> <p>・紹介します。</p> <p>◇○○に似合う (たこ・雪など) ◇ひだをつけるとカーテンみたい ねじると、風がふいてるみたい</p>	<p>○教室に、最初に触らせた材料と付箋を準備しておき、触ってみて何に似合うかを思いついたらすぐに付箋を使って書けるようにしておく。</p> <p>○書いた付箋は、各材料のホワイトボードに貼らせる。同じ言葉は重ねて紹介し、材料に対するイメージが広がるようにする。手を加えると何かに似合う場合も取り上げる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">材料の写真</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 150px; text-align: center;">さわり心地 (教師が板書)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100px; text-align: center;">何ににあうか</div> <div style="text-align: center;"> <p>※ホワイトボードは、 写真に撮って見やすくする。</p> </div> </div> </div> <p>○違う材料に同じ発想があれば、比較して違いを考えさせる。</p>
	15	<p>②どんな材料で、何をつくるか考える。</p> <p>○どんな触り心地の材料を使って、何をつくるか考えましよう。 ◇つるつるな材料でたこ。 ◇ふわふわの材料で、うさぎ。</p> <p>・考えた人は提出箱に出ましよう。 自分のつくりたい絵に似合う材料を集めてみましよう。</p>	<p>○作りたいものをロイロで書かせて提出させ、友達のを考えたものを見られるようにしておいて参考にさせる。</p> <p>(個に応じた支援)</p> <p>○考えるのに時間がかかる児童には、好きな触り心地の材料が何に似合うかということから考えるようアドバイスする。</p> <p>○つくりたい物が決まった児童は、必要な材料を自分の机の上に集めるように指示しておく。</p> <p>○最初に触った物とは違う材料も準備しておき、作りたい物の部分に応じて材料を集められるようにしておく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【具体の評価規準】【思表判①】 ○材料を触って感じたことからイメージを広げ、何の絵をつくるか考えている。(シート)</p> </div> <p>○材料を集められた児童は、作る時の参考になるように、写真に撮って残しておくようにさせる。</p>
終末	5	<p>3 今日の学習を振り返る。</p> <p>○今日の学習を振り返りましよう。 ◇つるつるの材料をもっとさがす。 ◇○○の部分をつくる材料をさがしたい。</p>	<p>○めあてができたかを 振り返らせる。</p> <p>○材料を集めた児童にもっと欲しい材料をたずね、次の時間までの材料集めが進むようにする。</p>